

2026年5月期通期 決算報告 シグマ光機株式会社

2026年 7月 16日 (木)

証券コード： 7713



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

- 司会： 本日はお忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。それでは説明会を開始いたします。

目次

1. 2026年5月期通期 決算概要・2027年5月期通期見通し

取締役 管理本部長 兼 経理部長

石井 康之

2. 中期経営戦略・主要マーケット別2027年5月期通期見通し

執行役員 経営企画部長 兼 総務人事管掌

本多 隆

3. 質疑応答

- 司会：最初に、「2026年5月期通期 決算概要 及び 2027年5月期通期見通し」について、「取締役 管理本部長 兼 経理部長 石井」よりご説明いたします。よろしくお願いいたします。
- 石井：石井と申します。本日はよろしくお願いいたします。それでは、私の方から、当期決算概要及び次期見通しについて、お話いたします。

1 2026年5月期通期 決算概要報告（連結）



- 当初想定よりエレクトロニクス業界等の需要回復が遅れるも、第4四半期から持ち直し。
- 海外地域向けは、米国地域&中国地域を中心に総じて回復基調で推移。
- 価格改定の効果、海外子会社の損益改善、高付加価値製品の需要回復等により増益。

【百万円】	FY24		FY25		FY26				
	実績	YoY	実績	YoY	実績	YoY	構成比	期初予算比(額)	期初予算比(率)
売上高	11,213	△1.4 %	11,580	+3.3 %	11,439	△1.2 %	100.0 %	△255	△2.2 %
営業利益	1,178	△21.7 %	1,131	△4.0 %	1,179	+4.3 %	10.3 %	△40	△3.3 %
経常利益	1,349	△20.2 %	1,269	△5.9 %	1,304	+2.8 %	11.4 %	△15	△1.2 %
親会社株主に 帰属する 当期純利益	687	△54.0 %	986	+43.5 %	831	△15.7 %	7.3 %	△53	△6.1 %
1株当たり 当期純利益	97円03銭		139円23銭		117円36銭		—		—
平均為替レート									
1USD	144.40円		152.77円		150.97円			140.00円	
1ユーロ	156.80円		163.71円		174.54円		—	155.00円	
1人民元	20.14円		21.13円		21.29円			19.50円	
1SGD	107.46円		113.97円		116.94円			108.00円	

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

2

- 報告期間における当期前半では、エレクトロニクス業界を中心とした一部の需要回復の遅れの影響を受けましたが、第4四半期から持ち直し、売上高については前年同期比で微減となりました。
- 特に、前期期中に実施した価格改定による販売単価の改善の他、海外地域の需要回復による海外子会社の損益の改善、並びに第4四半期での光学素子・薄膜製品等の高付加価値製品の回復等により、利益は前年同期比で増加いたしました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益については、前期に計上した当社能登工場の増築等に係る補助金収入の特別利益が剥落し、減少いたしました。

2 セグメント別売上高・営業損益（連結）



売上高

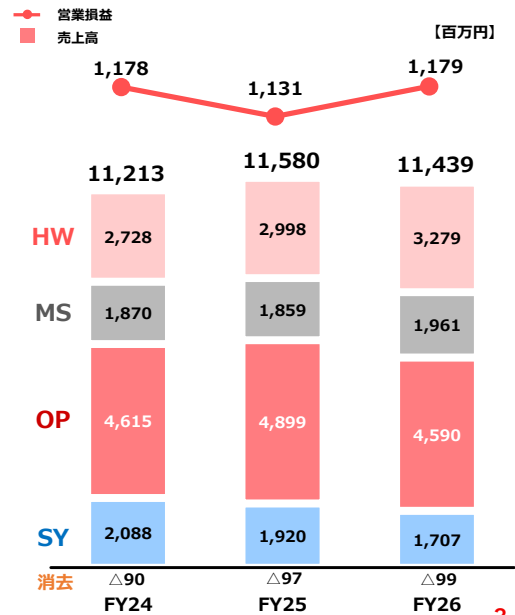
【百万円】

製品区分	FY24 実績	FY25 実績	FY26		
			実績	構成比	YoY
要素部品事業	9,215	9,757	9,831	85.9 %	+0.8 %
光学基本機器製品 (HW)	2,728	2,998	3,279	28.7 %	+9.4 %
自動応用製品 (MS)	1,870	1,859	1,961	17.1 %	+5.5 %
光学素子・薄膜製品 (OP)	4,615	4,899	4,590	40.1 %	△6.3 %
システム製品事業	2,088	1,920	1,707	14.9 %	△11.1 %
光学システム製品 (SY)	2,088	1,920	1,707	14.9 %	△11.1 %
消去	△90	△97	△99	△0.9 %	-
合 計	11,213	11,580	11,439	100.0 %	△1.2 %

営業損益

【百万円】

事業区分	FY24 実績	FY25 実績	FY26	
			実績	YoY
要素部品事業	1,516	1,642	1,636	△0.4 %
システム製品事業	223	72	111	+52.5 %
消去	△561	△583	△567	-
合 計	1,178	1,131	1,179	+4.3 %



- 続きまして、セグメント別の業績となります。
- 光学基本機器製品は、価格改定の効果が得られた他、海外地域向け及びエレクトロニクス分野向けへの組み込み用途等が堅調に推移いたしました。
- 自動応用製品は、バイオ業界向けの大口顧客における在庫調整が解消され、バイオ顕微鏡用ステージが堅調に推移いたしました。また、調芯システムが好調で推移いたしました。調芯システムについては、後ほど本多の方から詳しく説明させていただきます。
- 光学素子・薄膜製品については、海外地域向けは回復基調で推移いたしましたが、エレクトロニクス分野向けにおける一部の大口顧客向けが停滞いたしました。こちらは、第4四半期からは回復基調で推移しておりますが、期前半での減少をカバーしきれず、前年同期比では減収となりました。
- 光学システム製品では、エレクトロニクス業界向けは総じて軟調に推移し、医療業界向けでは、放射線測定関連が増加した半面、大型診断装置の反動減等により、低調に推移いたしました。また、防衛業界向けは堅調に推移いたしましたが、総じて軟調に推移いたしました。
- 営業利益については、要素部品事業は横ばいで推移し、システム製品事業が増益となり、総じて増益となりました。
- 要素部品事業では、主に価格改定の効果と海外子会社の損益の改善等があり、光学素子・薄膜製品の期前半の減収をカバーして、前期比で横ばい推移となりました。
- 価格改定については、前期後半にカタログ製品の全面的な値上げを実施し、当期においては、海外地域における主要な商社・代理店向けの卸売価格を見直しました。この結果、特にカタログ品の比率及び海外地域向けの比率が高い、光学基本機器製品の利益率が改善いたしました。
- システム製品事業では、全体的に軟調に推移いたしましたが、対物レンズ及び防衛向けなど、利益を取りやすい製品群の販売増加の恩恵等により、増益となりました。

3 海外販売先別売上高（連結）



● 米国・アジア地域の回復基調を背景に海外売上高増加+13.2%(YoY)

FY26'4Q

海外売上高

4,621 百万円

海外売上高構成比率

40.4 %

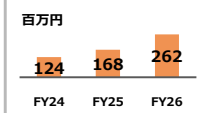
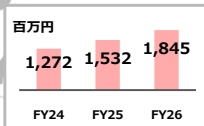
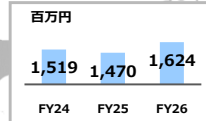
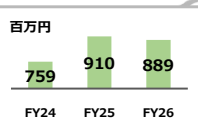
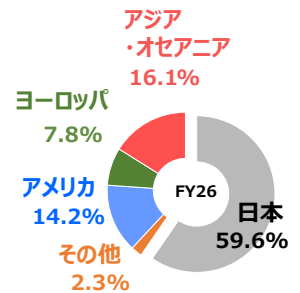
ヨーロッパ △2.3%(YoY)

アメリカ +10.5%(YoY)

アジア・オセアニア +20.4%(YoY)

その他 +55.6%(YoY)

販売先別売上高構成比



平均為替レート

	FY24	FY25	FY26
1USD円	144.40円	152.77円	150.97円
1EUR円	156.80円	163.71円	174.54円
1人民元	20.14円	21.13円	21.29円
1SGD	107.46円	113.97円	116.94円

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

4

- 海外売上高比率は、前年同期の35.3%から、5.1ポイント増加し、40.4%となりました。
- 特に、アメリカ地域（北米）においては、近年軟調に推移しておりましたが、当期においては、期後半から全般的に需要が回復基調で推移し、増収となりました。
- また、米国関税関連の影響については、期前半では数千万円程度の影響がありましたが、期後半からは、価格転嫁等の対策を行い、それらの影響のほとんどを吸収することができました。
- アジア地域においては、引き続き中国を中心に好調に推移し、韓国・台湾向け等も回復したことで、売上を伸ばしました。
- 欧州地域においては、マーケット全般として先行き不透明な状況が続く中、フランス子会社及びドイツの孫会社を中心に、ブランド認知度向上及びオンライン販売の強化に取り組んだ結果、全体として底堅く推移いたしました。
- その他地域では、フランス子会社の担当地域であるイスラエル等の中東地域向け及びアメリカ子会社の担当地域であるペルー等の南米地域向けが増加いたしました。

4 営業利益変動要因（連結）

● 価格改定の効果、海外子会社損益の改善等により、前年同期比48百万円の増益

(百万円)

FY25営業利益

1,131

売上高

△141

原価：材料費等

+452

原価：労務費

△99

原価：その他等

△143

販管費：人件費

△58

販管費：その他等

+39

FY26営業利益

1,179

■ 各項目の対前年比

(百万円)

売上高： △141（利益減少）

- ・光学素子・薄膜製品が低調に推移も、足元では回復基調推移。
- ・海外地域は米国・中国を中心に総じて堅調。

売上原価： △209（利益増加）

- ・材料費等： △452
価格改定の効果、費用削減効果（システム製品）
- ・労務費： +99
人員の増加及び賃金見直し等による人的投資の増加
- ・その他等： +143
米国関税関連費用の増加、工場棟の増設による減価償却費の増加等

販売管理費： +19（利益減少）

- ・人件費： +58
人員の増加及び賃金見直し等による人的投資の増加
- ・その他等： △39
試験研究費の増加、米国子会社の新社屋への移転関連費用の剥落等

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

5

- 当期前半では厳しい事業環境の影響受けましたが、各種の利益獲得活動や費用削減活動の推進、及び期後半からの需要回復等を背景に、通期としては増益を達成できました。
- 売上高については、先ほど説明した通りですが、減収による減益要因がありました。
- 続いて経費費用の増減要因ですが、引き続き人員確保のための昇給や人員増強等の人的投資を継続し、労務費及び人件費が増加いたしました。
- その他では、工場棟の増設による減価償却費の増加や、主に期前半での米国関税関連費用の増加等があり、米国子会社の新社屋への移転費用の剥落等がありました。
- このような経費項目の増加がある中で、各種費用の増加をカタログ価格に転嫁し、海外地域における主要な商社・代理店の卸値価格を見直しました。
- また、海外子会社各社における利益獲得活動の推進により損益が改善し、その他の経費削減に継続的に取り組んだ結果、営業利益は前期から48百万円改善することができました。

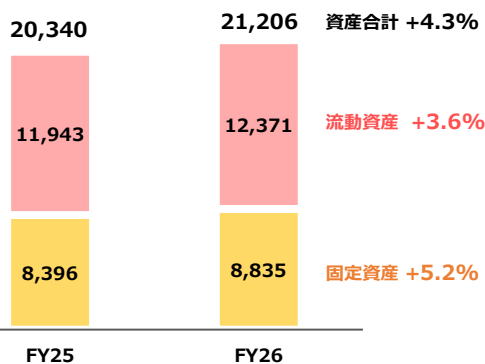
5 バランスシート概要（連結）



- 自己資本比率は87.8%で安定推移。

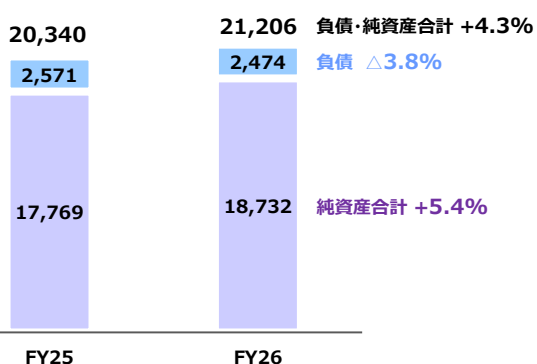
資産の部 / 増減率（YoY）

（百万円）



負債・純資産の部 / 増減率（YoY）

（百万円）



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

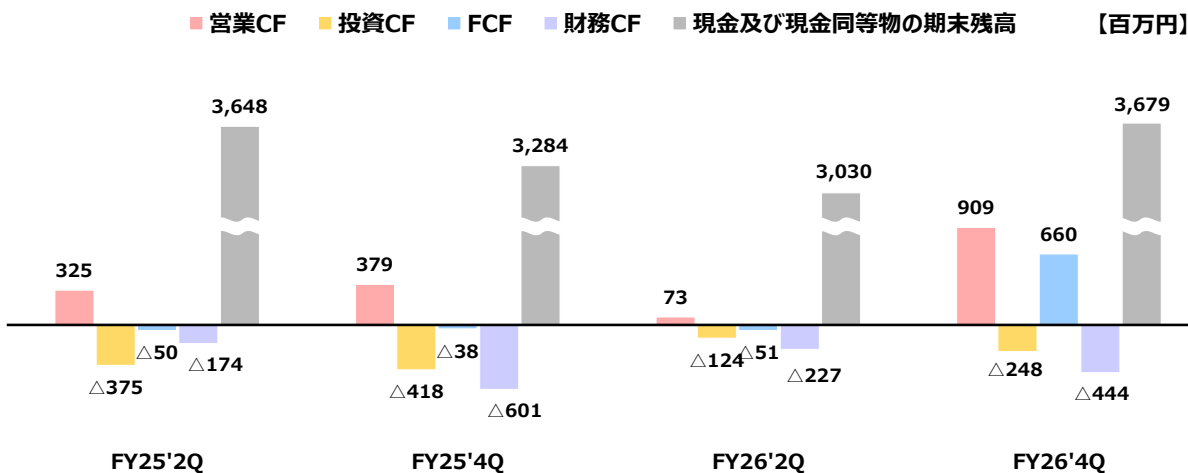
6

- BSの方では、大きな変動はなく、引き続き自己資本比率は9割弱の水準で推移いたしました。

6 キャッシュフロー概要（連結）



- 営業CFは当期純利益と資金流出を伴わない減価償却費の計上、仕入債務の増加。
- 投資CFは設備投資による減少が発生も、現金同等物の期末残高は増加。



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co., LTD.

7

- 営業CF：当期と前年同期との比較では、前年同期は電子記録債務や支払手形を発行することで発生する仕入債務を、すべて翌月の銀行振込による決済に変えたことで、仕入債務の減少がありましたが、当期では、このような特殊な支出はありませんでした。当期の営業CFは主に税引前当期純利益及び資金流出を伴わない減価償却費の計上、仕入債務の増加等によって、9億9百万円の現金獲得となりました。
- 投資CF：設備の投資などで248百万円支出いたしました。前期までは石川県にある2つの工場の建物増築等の投資がありましたが、これを終えて当期の投資CFはキャッシュアウトが大幅に減少しております。
- 財務CF：主に配当金の支払いと借入金返済による支出です。
- 現金及び現金同等物の期末残高については、前年同期の期末の現金残高から、この金額として3億9千5百万円ほど増加いたしました。

7 2027年5月期通期計画（連結）



- 世界経済の先行き不透明感が強まる中、足元では、半導体業界等が回復基調で推移。
- 人的投資及び研究開発投資等が続く中、製品MIX改善等により営業利益は前年比増益。
- 調芯システム&医療製品を中心に、中長期的な戦略成長への取り組みを推進中。

【百万円】	FY25		FY26		FY27					
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	上期予算	下期予算	通期予算	構成比	YoY	YoY(%)
売上高	11,580	100.0 %	11,439	100.0 %	5,830	6,050	11,880	100.0 %	+440	+3.9 %
営業利益	1,131	9.8 %	1,179	10.3 %	675	680	1,355	11.4 %	+175	+14.9 %
経常利益	1,269	11.0 %	1,304	11.4 %	700	740	1,440	12.1 %	+135	+10.4 %
親会社株主に 帰属する 当期純利益	986	8.5 %	831	7.3 %	460	515	975	8.2 %	+143	+17.3 %
1株当り 当期純利益	139円23銭	-	117円36銭	-	64円95銭	-	137円67銭	-	-	-

当期通期見込みの算定は、為替レート(期中平均)として1USドル=145.00円、1ユーロ=170.00円、1人民元=21.00円、1SGD=110.00円で計算しております。

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

8

- 続いて、2027年5月期の通期計画について説明いたします。
- 当年度における事業環境では、各国金融政策の動向や地政学的リスクの高まり等、世界経済は依然として先行き不透明感がありますが、足元の需要回復等を背景に増収増益の計画となりました。
- これは、カタログ品比率の高い光学基本機器製品の価格改定の効果が続く中、利益率の高い光学素子・薄膜製品等も、海外マーケット並びに国内の電子部品・半導体業界向け等での需要回復及び純増が見込まれていることから、増収を見込んでおります。
- 特に6月の受注については、日本単体及び米国子会社ともに、非常に好調な水準で推移しております。
- このように、海外マーケットで利益率の高い光学素子・薄膜製品や価格改定による利益改善効果のある光学基本機器製品が伸びることから、製品MIX改善効果により、利益面についても増益を見込んでおります。
- それに加えて、足元の需要動向では、自動応用製品における調芯システムや、光学システム製品における対物レンズなどの引き合いも増えてきており、業績の押し上げ効果が期待されます。
- その他、持続的な事業拡大に向けて、引き続き人的投資及び研究開発投資、設備投資等は継続してまいります。
- 中期経営方針に沿った経営の4つの柱の一つである「ビジネスモデル変革」を推進し、前期後半から、徐々にその効果が見え始めております。当社では、引き続き持続的な成長と企業価値向上を目指してまいります。中期経営方針については、本多の方から改めて説明いたします。

8 設備投資・減価償却費・研究開発費見込み（連結）

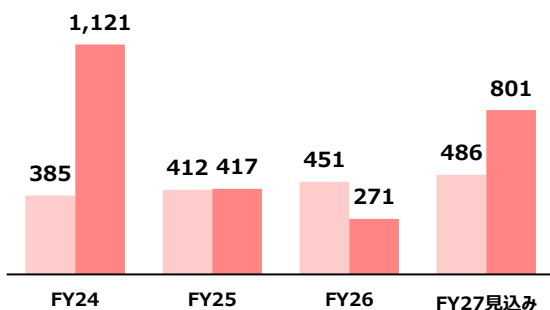


- 設備投資は高付加価値製品の生産設備への継続投資。
- 将来に向けた研究開発を継続。

設備投資・減価償却費

(百万円)

■ 減価償却費 ■ 設備投資

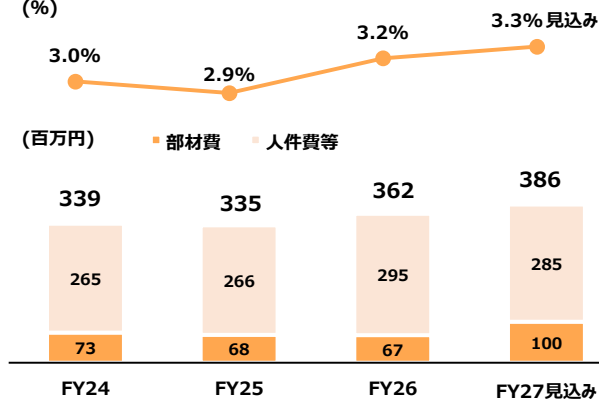


研究開発費・売上高構成比率（人件費＋部材費）

(%)

(百万円)

■ 部材費 ■ 人件費等



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co., LTD.

9

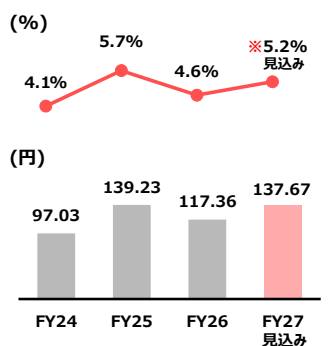
- 設備投資については、過去3～4年前は、石川県にある2つの工場の建屋の増築を中心とした投資を行なった他、米国子会社の新社屋関連の投資もあり、金額が大きくなりました。
- 2027年5月期は、高付加価値製品の生産設備等の導入を計画しており、8億円程度の設備投資を予定しております。
- 研究開発につきましても、中長期的な活動を視野に入れて、積極的に行ってまいります。

9 収益性・財務安定性・配当性向（連結）



- 将来の成長に向けた先行投資により純資産が増加
- 配当性向30%以上を目途とする中、創立50周年を迎え、8円増額を実施予定

自己資本利益率(ROE)
/ 1株当たり純利益(EPS)

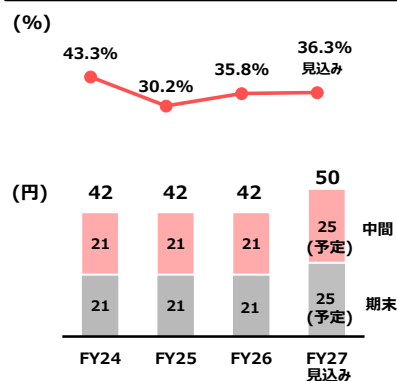


※ FY26'4Q時点の自己資本額を元に試算しております。

財務体質

	FY25	FY26
自己資本比率	86.9%	87.8%
利益剰余金	11,414	11,947
純有利子負債	△2,926	△3,397

配当性向・配当額



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

10

- 最後に主要な経営指標に関する説明です。
- 資本効率を表すROEについては、需要環境の回復の遅れ、及び人的投資や設備投資などの先行投資の影響もあり、低い水準が続いております。
- 回復基調で推移する需要環境を背景に、各種利益獲得活動等を推進し、持続的な事業成長を達成しながら、早期の収益性回復に努めてまいります。
- 配当金については、配当性向30%程度を目途とし、年間配当額の実額を維持できる安定配当を続けております。
- 今回の2027年5月期においては、来年4月11日に創立から50周年目を迎えることから、8円増額した50円にすることを決定いたしました。
- 今後も、配当性向等の指標も踏まえた積極的な株主還元と持続的な成長に向けた成長投資のバランスを考慮して、引き続き適切な資本構成と資源配分について検討してまいります。
- 私からの説明は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

目次

1. 2026年5月期通期 決算概要・2027年5月期通期見通し

取締役 管理本部長 兼 経理部長

石井 康之

2. 中期経営戦略・主要マーケット別2027年5月期通期見通し

執行役員 経営企画部長 兼 総務人事管掌

本多 隆

3. 質疑応答

- 司会：ありがとうございました。続きまして、「中期経営戦略・主要マーケット別2027年5月期通期見通し」について、「執行役員 経営企画部長 兼 総務管掌 本多」よりご説明いたします。よろしくお願いいたします。
- 本多：本多と申します。本日はよろしくお願いいたします。それでは、私の方から、中期経営戦略及び主要マーケット別見通しについて、ご説明させていただきます。

経営理念

「光産業を通じ、社会に貢献します」

中期経営方針

「Great Reset」

持続的な企業価値向上に向けて、
「光技術の可能性」を先見し、長期的な視点に基づく企業風土に変革する

- 当社では、中期経営方針として「Great Reset」を掲げて、持続的な企業成長に向けた取り組みを継続しております。
- あらゆるシーンで「光技術」が求められてくる未来に向けて、長期的な視点に立って、既存のビジネスモデルにおける持続的な成長と、新たなビジネスモデルへの変革による業容の拡大を図っております。

2 中期経営方針の4つの柱（重点戦略）



長期視点に基づく重点戦略（事業成長+サステナビリティ）を通じて、企業価値の最大化を目指します。



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

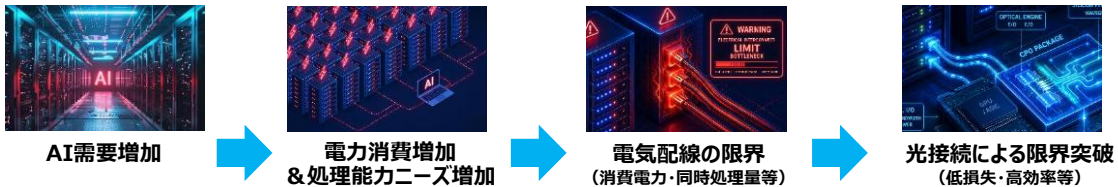
13

- 当社は、「光ソリューション・プロバイダー」として、光技術を活用するためのコンポーネントやユニットからアプリケーションシステムまでを、研究開発や産業のあらゆる分野にご提供していくことがミッションであると考えております。
- 「光ソリューション」のこの先の10年間を見据えた長期視点に基づく重点戦略により、既存事業分野を中心とした「高精密化」、「高効率化」、「高耐久化」をキーワードとした、高付加価値の光ソリューションを提供するオーガニックでの成長戦略を推進しております。
- また、足元の技術トレンドや事業環境の変化を踏まえた「光電融合分野」や、「医療・介護分野」でのビジネスモデル変革による戦略成長施策の展開を進めており、徐々に業績に寄与し始めております。
- また、これらの重点戦略を支えるサステナビリティ戦略である「事業承継・人材育成」と「社会貢献」を継続的に推進し、企業と事業の持続可能性を伸ばしております。

3 ビジネスモデル変革（調芯システム）



環境認識：光集積回路（PIC）・光電融合技術（CPO）の需要増加



PIC・CPOの社会実装のボトルネック：製造プロセス

■ 電気と光の接合・評価



- ナノ単位的位置決め
※電子機器同士より、1桁以上高い精度が必要
- 位置決めと光学評価の同時実行
※電気・制御技術と光技術の融合が必要
- 高精度かつ高速自動調芯

■ シグマ光機の調芯システム



- 15年以上の調芯システム開発実績
- 独自の調芯アルゴリズムによる高効率化
- 1nm単位的位置決め精度
- 光学観察・測定・評価技術
- 高い内製化率とシステム統合技術

調芯システムの受注及び引き合いが増加中（量子研究・半導体関連業界・通信・計測等）

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co., LTD.

14

- それでは、ここで、戦略成長施策である「ビジネスモデル変革」に関して、マーケット別に具体的な取り組みをご紹介したいと思います。
- まず1つ目は、次の社会基盤として社会実装が急速に進んでいるAI技術に不可欠な、光IC（PIC）や光電融合技術（CPO）を支える「調芯システム」についてご説明させていただきます。
- AIビッグデータを活用するためには、AIデータセンターが必要不可欠ですが、現状では、AIデータセンターでの数週間のAI学習で、原子力発電所1基の2～3日分、中規模の地方都市の年間電力消費量に匹敵する電力を消費すると言われております。AIデータセンターの増加は、電力不足及び環境問題等の社会問題につながります。
- 従来の電気配線は、高速通信時に通信効率が低く、発熱しやすいため、通信や冷却に多くの電力が必要となります。一方、光通信は高効率・低損失のため、消費電力を低く抑えやすい技術です。また、光通信の方が高速・大容量の処理が可能となり、演算処理の高速化・効率化が図れます。そのため、AIデータセンターでは光配線への移行が進んでいて、光IC（PIC）や光電融合技術（CPO）の開発が急速に進んでおります。
- これらの光IC（PIC）や光電融合技術（CPO）の開発や実際の製造現場では、1nmレベルの高精度位置決めとタクトタイムを低減可能な独自の調芯アルゴリズムを兼ね備えた当社の調芯システムへの期待が高まってきております。
- 最先端の量子研究や半導体分野などでの、光学測定・評価技術を支えるシステムとして引き合いが増加しております。

3 ビジネスモデル変革（体水分計）



健康社会(脱水・熱中症)解消に向けた社会的ニーズと、当社独自の光による体水分把握ソリューション



- 無自覚のまま悪化する
※気づいた時には既に脱水が進行している場合がある
- 客観的な評価が難しい
※客観的な指標がなく、周囲からの本人の状態把握が難しい
- 適切な飲水行動につながらない
※取り巻く環境や感情等で適切な水分補給が阻害される
- 急変リスク
※高齢者・小児では短時間で脱水が進行しやすい



■ シグマ光機の体水分計（ハイドロバランスメータ）



- 一般医療機器 特定保守管理医療機器
- 特許・商標出願による参入障壁の構築
- 非侵襲・簡便な測定方式による高い普及性
- 独自指標「HBS」により定量評価を実現
- 医療機関・研究機関との連携により、臨床エビデンスを継続的に蓄積・性能向上



「ハイドロバランスメータ」は、脱水・水分補給の専門家
谷口 英喜先生(※)にご命名いただきました。
※神奈川県済生会横浜市東部病院患者支援センター長 医学博士

■ 主な活用シーン



病院・介護施設



行政機関



在宅介護
・在宅リハビリテーション



土木・建築現場



スポーツ・教育現場

医療機関、在宅高齢者、スポーツ・教育現場、特に土木・建築現場からの引き合いが多い

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

15

- 続いてご紹介するのが、本年5月から一般販売を開始した、「脱水・熱中症」を定量的な数値で評価して健康被害を抑制する「体水分計（ハイドロバランスメータ）」です。
- 近年、記録的な猛暑の影響で「脱水・熱中症」が大きくクローズアップされております。そのような中、2025年6月1日付の労働安全衛生規則の改正による熱中症対策の義務化もあり、各事業者とも対策が急務となっております。
- そこで、今回当社が光技術を活用した、血中の水分量を測定するコンパクトでポケットブルな装置「体水分計（ハイドロバランスメータ）」を開発・販売開始いたしました。この機器は「一般医療機器・特定保守管理医療機器」として認証されております。
- 当社は、これまで開発した、血中の酸素飽和濃度を測定する医療機器である「オキシメーター」や血中の糖分度を評価するガジェット製品の「グルプレメーター」等で培ってきた非侵襲で光を使った測定・評価技術を、この「体水分計」でも駆使しております。
- いままで「脱水症」は、体調が悪くなって初めて自覚することが多く、高齢者や小児では対応が遅れて重篤化することもある、リスクの高い健康被害でした。
- また、人によってその症状は異なっており、取り巻く環境や本人の意識によって適切な飲水行動に結びつかずに、「かくれ脱水」から「脱水症」に重篤化することもありました。
- 当社が開発した「体水分計」では、脱水の把握のボトルネックであった数値化が図られ、一目で状態把握が出来るようになるため、熱中症対策が求められる医療・介護施設や行政機関、スポーツ・教育現場、特に土木・建設現場からの引き合いが増えてきております。

4 主要マーケット別2027年5月期通期見通し



国家PJ&研究機関

- 量子研究向け光学ユニット対応中
- 量子研究向け
高精度調芯システム需要増加
- 光学デバイス関連の教育向け
調芯ユニットの増加



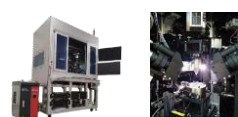
半導体・電子部品

- 半導体向け設備組込製品、
高精度光学ユニット需要増加
- 半導体検査向け対物レンズ需要増加
- 電子部品関連の設備用の
光学部品需要増加



通信・センシング

- 通信用モジュール向け
高精度調芯システム需要増加
- 通信用デバイス向け
高精度調芯システム需要増加
- 姿勢制御向けセンシング需要増加



メディカルフォトリクス

- 放射線分野向け測定装置需要継続
- バイオ向けユニットの需要増加
- 医療機器・健康ガジェット機器需要増加



防衛・航空宇宙

- 防衛向け光学ユニット増加
- 航空宇宙関連の需要継続



その他産業装置等

- AI・ロボティクス自動検査装置内製
&お客様評価継続



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

16

- それでは次に、主要マーケット別の展開状況についてお話しいたします。
- なお、掲載されている画像は必ずしも各マーケットでご紹介する製品・技術そのものではありませんので、ご了承ください。
- 各分野ともに、高精度、高効率、高耐久なレーザ用光学部品やユニットのニーズが高まっており、技術力、特注対応力を持つ当社のプレゼンスは高まっております。
- 先ほど、石井の方から既にご説明があったとおり、2025年度第3四半期までは、米国の通商政策を巡る動向や、各国の金融政策に伴う為替や物価の変動、中東地域における地政学的リスクの高まり等により、一部の地域や業界で回復の兆しは徐々に見えてきているものの、全体として苦戦したという状況となっております。
- 当社の売上高の20%程度を占める電子部品・半導体業界の各企業でも、各社の回復のスピードに差があり、当社の大口顧客の一部は回復が遅れていたものの、2025年度第4四半期からその回復スピードが急速に早まり、足元の需要動向は好調に推移しております。
- 国家プロジェクトでは、「光格子時計」をはじめ高精度な光の制御が必要なため、量子研究などで高精度な光学ユニットや調芯システムの需要が高まっております。
- AI分野や半導体分野でも、PICやCPO案件での調芯システムの需要や組込み用の高精度なレンズ・ミラーや光学ユニットの需要が増えております。
- また、医療・バイオ分野では、バイオ顕微鏡用の高分解能自動ステージの需要が堅調に推移しております。そして今後、医療用や健康ガジェットのポータブルな健康測定装置の伸長が期待されております。

5 海外マーケット別2027年5月期通期見通し



欧州・中東

- 欧州経済は先行き不透明な状況続く
- 研究機関向け継続受注フォロー中
- 産業分野向け新規案件開拓・販売強化
- ドイツ孫会社を中心に新規案件獲得活動の強化
- バイオフォトニクス向け製品の受注フォロー中
- 調芯システムの開拓・販売強化
- イスラエル等の中東地域向け需要増加

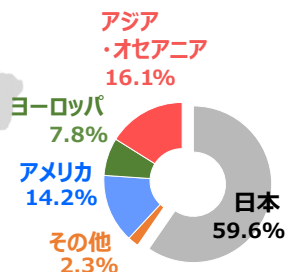
北米・南米

- 米国経済の先行き不透明も案件は徐々に増加
- 半導体有望顧客からの光学ユニットの案件継続対応中
- 自社生産体制を構築し、高付加価値製品の販売強化
- カスタム製品を中心とした新規OEM案件の獲得強化
- 国家PJ等、高難度チャレンジ案件継続フォロー

アジア ※日本除く

- 中国産業分野の生産設備向けの需要は増加
- 先端産業の生産設備向けの需要は増加傾向
- 台湾を中心に調芯システムの需要増加
- 東南アジアの量子研究分野向け等の案件増加
- 東南アジアの現地光学ユニットの開拓・販売強化

(参考)2026年5月期通期
販売先別売上高構成比



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co., LTD.

17

- 続いて、エリア別の概要をご報告いたします。
- 先ほどからご説明の通り、国内市場や一部の海外市場は、2025年度第3四半期までは、一部の地域や業界で回復の兆しは徐々に見えてきているものの、全体として苦戦したという状況でしたが、2025年度第4四半期から好調な需要動向となってきました。
- ただし、各国金融政策に起因する設備投資の動向や、米国・中国をはじめとした東欧、中東などでの地政学的なリスクなどの懸念事項もあり、将来の見通しについては、予断を許さない状況と認識しております。
- 当社子会社の中で最も大きな売上を計上している北米・南米地域は、2025年度は産業分野の設備投資の回復が遅れておりましたが、2025年度下半期後半から既存顧客からの引き合いが徐々に増加してきている状況であり、進行期である2026年度での回復を見込んでおります。また、米国子会社において、高付加価値化による収益力の向上に向け、自社内での新規光学製品の生産にもチャレンジしており、来期以降とはなりますが、その効果が期待されております。
- 欧州地域は、欧州子会社が注力する地域・顧客の「選択と集中」の戦略を進めておりますが、地域性としては、産業分野における中国や米国への輸出減少もあり、軟調に推移いたしました。しかしながら、当社孫会社を設置したドイツも徐々に回復してきているとともに、欧州地域・顧客の展開を徐々に拡張し、産業分野への営業活動を活発化させるなど、2026年度においては、売上高の伸長が期待されております。
- 最後にアジア地域ですが、当社本体が担当する中国は、同国内の製造業全体の見通しはやや不透明な状況も、当社のお客様の足元の需要は好調に推移しております。また、東南アジアは、量子研究関連の国立大学や民間企業への高精度調芯システムの需要が増加しております。シンガポール地域の新規の調芯システムの受注は、当社子会社が他社に対して優位性を持っており、引き続き展開を強化していく戦略を進めております。
- 以上で、当方からのご説明は終了させていただきます。ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

本説明会にて提供させていただいた情報および本資料内に記載されている当社グループに関する業績予想、方針、経営戦略、目標等に関しては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。

よって、今後様々な要因により将来の見通しに関する記載事項や予想数値等が変化することが考えられます。すなわちこれら記載事項や予想数値等はその性質上、将来そのとおりに実現するという保証は致しかねますのでご注意ください。

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

- 司会： それでは、これもちまして、「シグマ光機株式会社、2026年5月期通期 決算説明会」を終了いたします。本日はご多忙のところご参加いただきまして誠にありがとうございました。

補足資料

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

四半期別セグメント別売上高・営業損益



売上高

【百万円】	FY25'1Q 実績	FY25'2Q 実績	FY25'3Q 実績	FY25'4Q 実績	FY26'1Q 実績	FY26'2Q 実績	FY26'3Q 実績	FY26'4Q 実績
要素部品事業	2,314	2,428	2,648	2,365	2,132	2,475	2,405	2,817
光学基本機器製品(HW)	702	727	776	792	685	743	855	995
自動応用製品(MS)	423	438	536	461	435	455	467	603
光学素子・薄膜製品(OP)	1,188	1,263	1,336	1,111	1,011	1,276	1,083	1,218
システム製品事業	355	494	528	542	390	482	376	459
光学システム製品(SY)	355	494	528	542	390	484	376	459
消去	△14	△27	△29	△26	△17	△21	△33	△27
合 計	2,654	2,895	3,148	2,882	2,505	2,936	2,748	3,249

営業損益

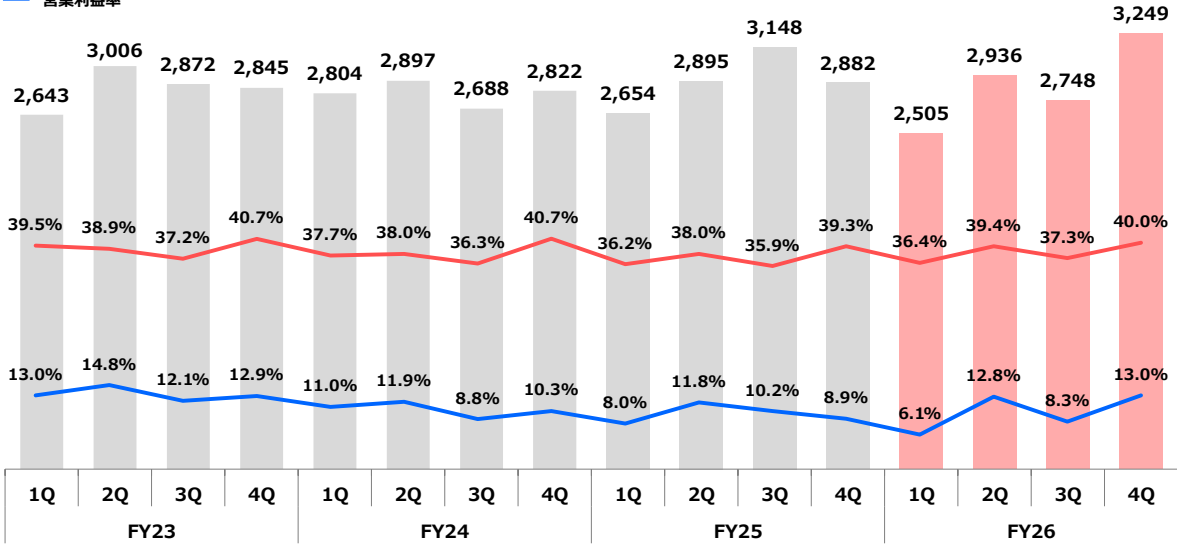
【百万円】	FY25'1Q 実績	FY25'2Q 実績	FY25'3Q 実績	FY25'4Q 実績	FY26'1Q 実績	FY26'2Q 実績	FY26'3Q 実績	FY26'4Q 実績
要素部品事業	352	477	445	366	262	442	358	573
システム製品事業	△12	5	18	61	17	66	10	16
消去	△127	△143	△142	△171	△127	△133	△139	△166
合 計	212	340	321	256	152	374	229	423

売上高・利益率推移



(百万円)

- 売上高
- 売上総利益率
- 営業利益率



COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

グループ会社別売上高・営業損益



【百万円】

売上高

			FY24	FY25	FY26
シグマ光機	本社：日本	開発、販売、生産	9,287	9,380	9,245
OptoSigma	本社：アメリカ	販売	1,807	1,796	1,965
OptoSigma Europe	本社：フランス	販売	784	944	1,001
SHANGHAI SIGMA KOKI	本社：中国	生産	612	928	946
OptoSigma Southeast Asia	本社：シンガポール	販売	222	255	254
消去又は全社			△1,501	△1,725	△1,975
連結			11,213	11,580	11,439

【百万円】

営業損益

			FY24	FY25	FY26
シグマ光機	本社：日本	開発、販売、生産	1,545	1,529	1,493
OptoSigma	本社：アメリカ	販売	59	△83	7
OptoSigma Europe	本社：フランス	販売	7	39	△3
SHANGHAI SIGMA KOKI	本社：中国	生産	6	100	97
OptoSigma Southeast Asia	本社：シンガポール	販売	△2	△5	12
消去又は全社			△438	△450	△428
連結			1,178	1,131	1,179

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

売上原価の推移



【百万円】	FY24		FY25		FY26		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	YoY
売上高	11,213	100.0 %	11,580	100.0 %	11,439	100.0 %	△1.2 %
売上原価	6,928	61.8 %	7,254	62.6 %	7,045	61.6 %	△2.9 %
材料費等	4,614	41.2 %	4,550	39.3 %	4,097	35.8 %	△9.9 %
労務費	1,754	15.6 %	1,928	16.7 %	2,027	17.7 %	+5.2 %
減価償却費	248	2.2 %	300	2.6 %	327	2.9 %	+9.0 %
その他	310	2.8 %	475	4.1 %	592	5.2 %	+24.5 %
売上総利益	4,284	38.2 %	4,325	37.4 %	4,394	38.4 %	+1.6 %

COPYRIGHT © 2026 SIGMA KOKI Co.,LTD.

販売管理費の推移



【百万円】	FY24		FY25		FY26		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	YoY
売上高	11,213	100.0 %	11,580	100.0 %	11,439	100.0 %	△1.2 %
販売管理費	3,106	27.7 %	3,194	27.6 %	3,214	28.1 %	+0.6 %
販売促進費	401	3.6 %	354	3.1 %	354	3.1 %	△0.2 %
広告宣伝費	100	0.9 %	98	0.9 %	113	1.0 %	+15.0 %
人件費	1,342	12.0 %	1,448	12.5 %	1,507	13.2 %	+4.1 %
減価償却費	81	0.7 %	62	0.5 %	69	0.6 %	+11.4 %
試験研究費	339	3.0 %	335	2.9 %	362	3.2 %	+8.3 %
その他	840	7.5 %	895	7.7 %	807	7.1 %	△9.8 %
営業利益	1,178	10.5 %	1,131	9.8 %	1,179	10.3 %	+4.3 %

主要設備投資

○FY24実績	
・オプトシグマ新社屋リノベーション・設備投資	4.8 億円
・能登工場増築(当期支払分)	3.1 億円
・白山技術センター増築(当期支払分)	1.5 億円
・情報システム投資	0.4 億円
・上海シグマ光機設備投資	0.4 億円
○FY25	
・オプトシグマ新社屋リノベーション・設備投資	1.4 億円
・基本機器設備投資	0.6 億円
・検査測定機器	0.5 億円
・能登工場増築(当期支払分)	0.4 億円
○FY26	
・上海シグマ光機設備投資	0.7 億円
・基本機器設備投資	0.3 億円
・オプトシグマヨーロッパ設備投資	0.2 億円
○FY27見込み	
・光学素子設備投資	2.9 億円
・能登工場設備投資(基本機器・光学素子)	1.5 億円
・オプトシグマ設備投資	0.8 億円
・上海シグマ光機設備投資	0.4 億円
・販売ウェブサイト改修	0.4 億円

研究開発費補足説明

【百万円】

○人件費等		研究開発費 (人件費込み) 売上高比率
	人件費等	
FY24	265	3.0%
FY25	266	2.9%
FY26	295	3.2%
FY27見込	285	3.3%
○部材費		
	自社	うち産学官連携
FY24	73	24
FY25	68	35
FY26	67	27
FY27見込	100	19